

平成27年度 スポーツトレーナー学ユニット研究活動状況

A. ユニットメンバー

増田 研一、辻 和哉、中尾 哲也、内田 靖之、
山口 由美子

B. 活動報告

本ユニットを構成するメンバーは全員が大学内／大学外で様々なスポーツ種目の色々なカテゴリーの『現場』に帯同し、世界大会出場を決めたり日本タイトルを獲得したりと数多くの実績を上げている。

その目標達成ために多種多様なコンディショニングの手法やトレーニング方法（特に最新のもの）を実践／指導する機会が非常に多くなっている。したがってそれらに関する客観的なエビデンスを可及的即座に『現場』にフィードバックする必要性があり、各自がその実践に向け活動を継続している。

また、対象をトップアスリートに限るのではなく、『超高齢化社会』である我が国における健康寿命の維持という観点から、そして予防医学的視点から疫学的調査なども並行して実施し、各々の活動内容に活かすべく留意している。

具体的な項目としては、

- ・様々なトレーニングの手法や選手／チームのパフォーマンス向上に関してより効果的な手法を各種の科学的／客観的パラメーターを用いて検討すること。
- ・予防医学的な観点からスポーツ現場に於ける様々なポジティブ・ネガティブ両面における要因を疫学的に調査すること。
- ・各種消炎鎮痛処置（器具を用いた療法）やテーピングなどのスポーツ現場などの臨床の場に於いて広く施行されている保存治療やコンディショニングの手法に関して、各々の効果発現メカニズムを出来るだけ科学的かつ客観的に把握することを目的として種々のパラメーターを用いて検討すること。

などがある。

C. 研究業績

原著

中尾哲也, 辻田純三, 山下陽一郎, 増田研一, 金井成行, 平川和文: 下部体幹筋群収縮が運動機能に及ぼす影響. 日本生理人類学会誌, 20 (3): 135-145, 2015.

中尾哲也, 増田研一, 金井成行, 山下陽一郎, 辻田純三: 下部体幹筋群収縮様式が体幹伸展筋力および大殿筋活動に及ぼす影響. 体力科学64 (6): 656, 2015.

辻田純三, 山下陽一郎, 中尾哲也, 渋谷智也, 上尾博司, 辻田大: 皮膚吸引による筋膜リリースが呼吸機能に及ぼす影響. 体力科学64 (6): 740, 2015.

吉田隆紀, 鈴木俊明, 増田研一: 前腕筋群の疲労に対する末梢神経電気療法の効果－グリッ動作課題における握力と筋電図積分地を用いた検討－. 日本臨床スポーツ医学会誌23 (3): 552 – 559, 2015

内田靖之, 下河内洋平: 疲労タスクから探るトレーニングメニュー作成へ 新たな提言JATI EXPRESS vol.47, 2015

山口由美子: AFC U-19WOMEN'S CHAMPIONSHIP CHINA2013を通して. 公益財団法人日本サッカー協会医学委員会年報, 2013年4月～2014年12月版: 64 – 66, 2015.

学会・研究会発表

吉田隆紀, 谷埜予士次, 鈴木俊明, 増田研一: 外反母趾症状を有する女子大学生の身体的歩行時の特徴. 第55回近畿理学療法学会大会. 神戸. 2015.11

D. その他

増田研一: スポーツ現場に於けるメディカルサポートの注意点①頭部外傷対策②準備物品と記録方法: 平成27年和歌山県医師会主催日本医師会認定健康スポーツ医学再研修会. 和歌山. 2015.2

増田研一: スポーツ現場に於けるリスク管理: 平成27年度有田市中学校保険協議会総会特別講演. 2015.6

増田研一: 一般社団法人大阪府サッカー協会季刊誌 Action! テクニカルスタディ (メディカル) 9月号P.22 『ボールを用いないトレーニング』
12月号P.23 『静的トレーニングと動的トレーニング』
3月号P.22 『予防目的のトレーニング』